

<p>公安委員会</p> <p>説明資料No. 1</p>	<p>平成29年における組織犯罪の情勢について</p>	<p>平成30年4月12日</p> <p>組織犯罪対策企画課</p>
<p>1. 総論</p> <p>(1) 薬物事犯をめぐる犯罪組織の結節点【P1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 暴力団は引き続き覚醒剤を重要な資金源としており、海外の薬物犯罪組織と結託するなどしている状況。 ○ 近年若年層を中心に増加傾向にある大麻事犯においても、暴力団と海外の犯罪組織とが結託して栽培等を行う事例も存在。 <p>(2) 来日外国人犯罪の状況【P2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 来日外国人犯罪の総検挙件数に占めるベトナム人の割合が、初めて最多。 ○ 来日ベトナム人による空き巣の増加及び地方への拡散。 ○ 悪質な送出国や仲介業者の甘言にそそのかされて来日した末に犯罪に手を染めるものも存在。 ○ 内外の犯罪組織相互の結節点の存在。 <p>2. 各論</p> <p>(1) 暴力団情勢【P3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 暴力団構成員等の検挙人員は近年減少傾向にあり、29年は17,737人。 ○ 対立抗争に起因するとみられる不法行為の発生件数は8件、事業者襲撃等事件発生事件数は2事件。 ○ 神戸山口組を指定暴力団に指定して以降、六代目山口組及び神戸山口組間の対立抗争に起因するとみられる不法行為の発生頻度は減少しているものの、4月には神戸山口組傘下組織の一部が任侠団体山口組（その後、任侠山口組に改称）の結成を表明。 ○ 任侠山口組については、30年3月22日、兵庫県公安委員会が、暴力団対策法に基づき、指定暴力団として新たに指定。 <p>(2) 薬物・銃器情勢【P5-7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 覚醒剤事犯検挙人員は10,113人と近年わずかな幅での減少が続いている一方で、大麻事犯検挙人員は増加が続き、3,008人と過去最多。 ○ 大麻事犯の人口10万人当たりの検挙人員については、若年層を中心に増加傾向。 ○ 覚醒剤密輸入押収量は1,073.4キロと昨年と同様1,000キロ超え。 ○ 拳銃押収丁数は減少傾向にあったところ、360丁と増加。このうち暴力団の管理と認められるものは79丁。 		

(3) 来日外国人犯罪情勢【P8-9】

- 外国人入国者数が大幅に増加（平成25年約1,100万人→平成29年約2,700万人）する中、総検挙人員はほぼ横ばい。
- 総検挙人員の国籍等別の内訳は、中国29.2%、ベトナム23.5%、フィリピン7.2%で、3か国で全体の約60%を占める。
- 総検挙人員の在留資格別の内訳は「留学」20.7%、「短期滞在」16.9%、「技能実習」15.2%で、これらの合計で全体の約半数を占める。

※ 別添資料省略

公安委員会	第二種免許制度等の在り方に関する	平成30年4月12日
説明資料No. 2	有識者会議等の開催について	運転免許課

1 平成30年度に開催する有識者会議等について

(1) 有識者会議

ア 概要

30年度内に6回程度開催し、年度末までに第二種免許制度の今後の在り方について提言を取りまとめることを目指し検討を行う。

イ 構成員（別紙1）

※ 第1回有識者会議は、4月25日（水）午後2時から三田共用会議所で開催。

(2) 調査研究の概要

大型第二種免許等の経験年数要件を1年以上に短縮することの可否等について、実験教習等を実施し検討を行う。

2 背景（別紙2）

(1) 規制改革実施計画（平成28年6月2日閣議決定）において、普通第二種免許の受験資格の緩和について検討することとされた。

(2) さらに、規制改革実施計画（平成29年6月9日閣議決定）において、大型第二種免許等に係る受験資格の見直しを含め、第二種免許制度の今後の在り方について総合的に検討することとされた。

※ 第二種免許の受験資格は、21歳以上（年齢要件）かつ普通免許等保有3年以上（経験年数要件）。

3 平成29年度に実施した調査研究の概要（別紙3）

(1) 29年度に、普通第二種免許の受験資格のうち経験年数要件について調査研究を実施。

(2) 新たな教習カリキュラムを受講した運転経験年数1年以上2年未満の者は、現行の教習カリキュラムを受講した運転経験年数2年以上3年未満の者とおおむね同等の危険予測・回避能力等を得られた。

※ 別紙省略